

バードウォッチング

きょう、愛鳥クラブ全員と、小林先生で、バードウォッチングに行った。出発、三時二十五分、さっそくひよどりや、小鳥小屋の上を飛んでいったが、あまりよく見えず、見そこなった人もいた。次に、右の林の方に、しじゅうからが「チーチー」と、鳴いた。

みんなそうが眼鏡を手に取った。

これは、むねの部分に黒いネクタイの模様をしていたので、みんなすぐ分かった。五分くらい歩き、緑川を見た。

すると、わきせ側の石べに、かるがも五、六びきと、おしどり一ぴきが見えた。

かるがもはともかく、おしどりは、きれいな模様で、

スースーと泳いでいた。きれいだなあと思った。

それから、十五分歩くと、つぐみが見えた。鳴き声は聞こえなかったが、むねの部分にうろこ模様があるのを知った。

また、二十分くらい歩くと、鳥の名前は分からなかったが、

とにかく大きい鳥がいた。全体的に茶色っぽかった。次に、小鳥が電線に止まっていた。これは、もずだった。けれども、すぐ飛び立ったので、あまり分からなかった。山道にさしかかった。その道は、キャンプ村へ通じる道だった。その道を二十分くらい歩いた。

キャンプ村の手前まで来て川を見ると、小林先生が大きな声で、「やったあ。」と、言った。ぼくたちは、ただその声を聞いて、ぼうぜんとしていた。「どうしたと、先生。」と、みんなが言う。「やませみを見つけた。」「え、本当ね。」みんな、口ぐちに言う。「先生、早く見せて。」「ほら、見てごらん。」ぼくは、一番に見せてもらった。何と本当にやませみがいたのだ。少しの間、代わる代わる見ていると、やませみが飛び立った。かと思うと、もう川に飛び込んで、口には大きな魚をくわえていた。くわえていたと思うと、もうゴクリと食べてしまった。今度は、湖のまん中の方へ飛んでいった。……残念なことに見失ってしまったのだ。「あくあ。」みんな、口を合わせて言った。だが、ぼくは見たただけでうれしかった。バードウォッチングって、楽しいなあ……と、あらためて思った。

野鳥は、自然を教えてくれる みんなの先生だ。



石橋の町に 楽しさが はずむ。

「花と緑と鳥にかこまれた学校」 づくり ●下益城郡砥用町立励徳小学校

「先生、双眼鏡貸して！」子供達の元気な声と共に、十五個ある双眼鏡があっという間になくなってしまいました。砥用町立励徳小学校では、休み時間になると双眼鏡や望遠鏡を熱心にごさき込む子供達の姿があらこちらに見られます。野鳥の観察をしているのです。同校は、六年前に統合されてできた新しい学校ですが、「新しい伝統を作ろう」を合言葉



に「花と緑と鳥に囲まれた学校づくり」に励み、愛鳥モデル校として本年度の文部大臣奨励賞を受賞しました。探鳥会その他、巣箱かけや、えさの栽培、愛鳥カルタ大会やクイズ大会など一年を通して様々な行事や活動が行われ、周辺で観察された野鳥も、五十種以上にもなるそうです。

恵まれた自然環境の中で、子供達は、野鳥を通して、自然の豊かさ・不思議さ・楽しさを学びながら、その自然を大切にし、自然と共に生きようとする心を育てているようです。

